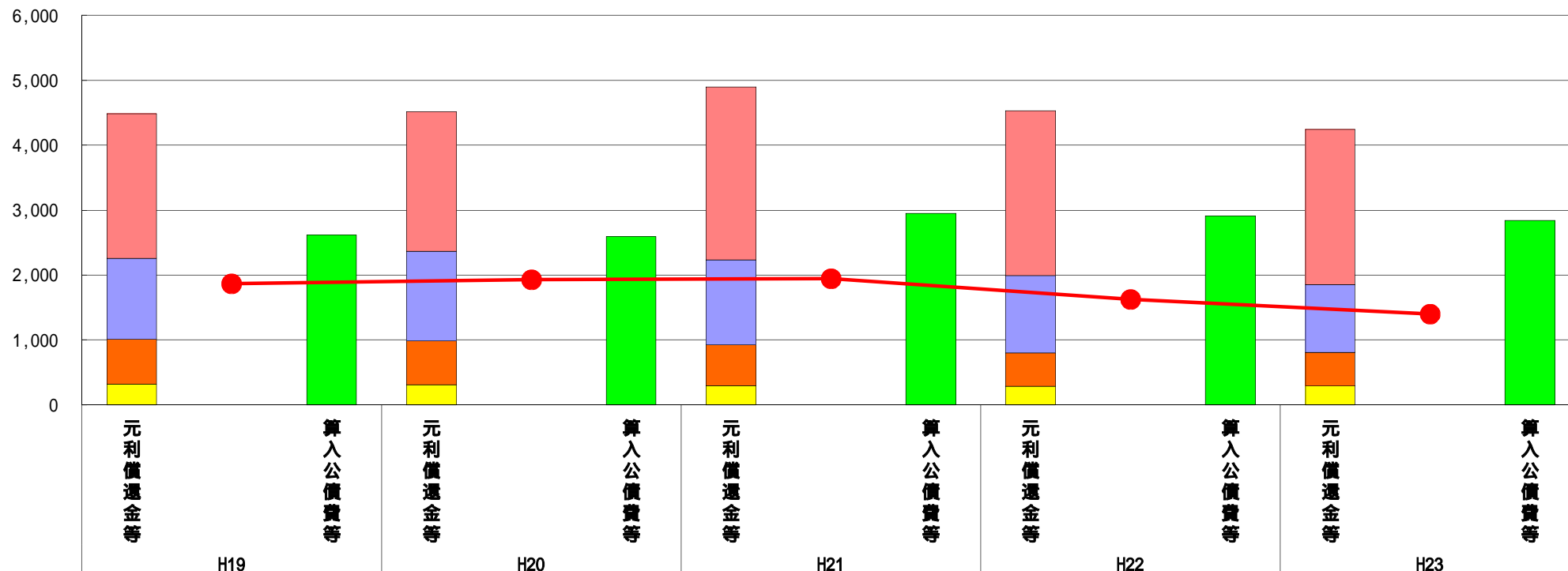


# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

岡山県笠岡市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等(A)	元利償還金		2,223	2,154	2,662	2,538	2,393
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,247	1,374	1,310	1,193	1,042
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		696	679	628	514	511
	債務負担行為に基づく支出額		316	311	298	288	296
	一時借入金の利息		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等		2,615	2,591	2,951	2,909	2,839
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,867	1,927	1,947	1,624	1,403

## 分析欄

- ・繰上償還額を控除した元利償還金の額は、市債借入額の抑制や補償金免除繰上償還の効果で年々減少している。
- ・元利償還金が年々減少しているにも関わらず、平成21年度までは実質公債費比率の分子が増加しているのは、基準財政需要額へ算入される公債費の減が主な要因である。
- ・公債費を減少させる取り組みを継続的に実施しているため、元利償還金や公営企業債の元利償還金に対する繰入金の額は、今後も減少していく見込みである。

平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。